

評価対象	羅針盤		方 策	達成度		達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部評価		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	○科目選択や習熟度による少人数授業に80%以上の生徒が満足している。	○自ら選択した科目への意欲と期待、並びに習熟度別少人数授業の利点を生かし、主体的に対話的な学びを推進する等授業の充実と努める。	A	A	○選択した科目・コースへの意欲、習熟度別少人数授業に対する満足度は良好である。専門科目に対する学習意欲は総じて高く、生徒や保護者からの期待が高まる。今後も時代の変化に即した学習内容の改善を図り、充実した教育を推進したい。また各科目を通じて地域との連携事業についても深化させていきたい。	○総合的な探究の時間、総合実習、課題研究の7科目が生徒の興味関心があり、とても良い学びになっている。近隣の高校にはない特殊な分野が学べ、素直らしく、今後の期待が高い事と納得した。
		○「総合的な探究の時間」「総合実習」「課題研究」のいずれかにおいて、主体的に取り組んだと答えた生徒の割合が90%以上である。	○各自が所属する学科の教育活動にやりがいを感じている。	○各々の学科において、重点目標の達成を目指し、具体的かつ計画的に授業や特別活動、研究活動を推進する。 ○各々の学科において、それぞれの重点目標の達成を目指し、時代の変化を考慮しながら教育課程の見直しを行う。	A	A	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	○75%以上の生徒が「授業がわかりやすい」と答えている。	○各教職員がわかりやすい授業づくりのための工夫を図るとともに、全体研修も推進する。	A	A	○分かりやすい授業づくりには職員全体が取り組んでおり、生徒の約9割が肯定的に評価している。教師自身は約8割強が学習活動の工夫に取り組んでいるとしている。	○授業の分かり易さは、ICTを活用し単元毎に7割を取り、生徒・教師共に振り返りを願っていたい。 ○自身は美業高校出身で資格取得に向け、厳しい指導があった。先生方が生徒達の挑戦する気持ちを引き出す苦勞が伺える。 ○令和6年度学校評価シートを見てとても適切な学習活動指導が行われているのが良かった。今後も学習活動の工夫をお願いしたい。 ○資格取得の取組に生徒・学校努力が見られた。 ○生徒の「ワーク」を使用した発表を拝見させて頂き、資料の分かり易さ、堂々とした発表に感心した。ひとえに生徒の意欲とそれを引き出す先生方の適切な指導の賜であると非常に高く評価できる。
		○70%以上の生徒が、何らかの資格を取得していたり、資格取得に向けて取り組んでいる。	○資格取得について、各学科で計画的に啓発的指導を行う。	B	B	○資格取得については、各係が定期的に案内している。6.5割の生徒が資格取得に向け努力したいと回答した。資格取得について各学科での指導をさらに推進したい。 ○ICTの活用についても、生徒からの評価は高いが、教師の自己評価は低い傾向が見られる。 ○授業について生徒の評価は概ね高いが、若干であるが教師の自己評価は低い傾向が見られる。研修や授業改善資料の提供等をおし、より分かりやすい授業の展開を学校全体でサポートしたい。 ○ICTの活用について引き続き推進するが、職員の負担増や自信低下につながらぬよう配慮したい。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	○70%以上の生徒が、前向きな気持ちで授業に取り組んでいる。	○ICTを活用して、わかりやすく、協働的な学びが実現できるような心がける。 ○生徒が意欲的に学習へ取り組んだり、達成感を感じられるような授業を推進する。	B	A	○生徒指導及び各種情報共有については優先的かつ緊張感をもって対応にあたる。 ○特にいじめについては現在10件(1,2年生各5件)を認知し、うち3件をいじめとして認定した。認定した3件について、慎重かつ丁寧に対応している。 ○職員側はいじめ対策や相談について受け止める体制を整備している。生徒からの相談に関する認識は余り向上しなかった。また、約2割の生徒は教師を信頼して相談できない様子であり、問題の早期解決の支障となる。「心の健康手帳」等の導入に加え、更に生徒と保護者に対して相談を受ける体制をPRし、学校側に対する信頼を向上させるとともに、教員によるいじめ等の問題の早期解決を取り戻したい。 ○4/8～1/20の1日当たり学校全体の欠席者18人、遅刻者92人、早退者は1.5人となっている。一部の生徒が繰り返し遅刻・欠席をしている様子が見られる。3割の影響が休むことに抵抗を感じない生徒が多くなっていると思われる。長期にわたる遅刻・欠席を続ける生徒については、生徒・保護者に粘り強く対応し、今後も状況に応じて「カノカノ」「カノカノ」(SSW)や医療へ繋げるようしたい。 ○部活動や研究活動へ参加する生徒は約6割、しない生徒は約4割となっている。放課後や休日に「カノカノ」をする生徒が増加しており、生徒の放課後の過ごし方は多様化が進んでいる。 ○「ながらスマホ」を「カノカノ」活用していると考えているが、登下校の指導等では注意を受ける者も目立つため、引き続き注視し指導を続けたい。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	○職員会議や学年会議等で、生徒に関する情報交換を月に3回以上実施する。	○生徒の指導にあたっては迅速に確実な情報を収集し、客観的かつ公平な判断を行いながら指導にあたるよう留意する。生徒指導に関する情報は慎重かつ積極的に共有を進め、組織的な対応に役立てる。	A	A	○生徒指導及び各種情報共有については優先的かつ緊張感をもって対応にあたる。 ○特にいじめについては現在10件(1,2年生各5件)を認知し、うち3件をいじめとして認定した。認定した3件について、慎重かつ丁寧に対応している。 ○職員側はいじめ対策や相談について受け止める体制を整備している。生徒からの相談に関する認識は余り向上しなかった。また、約2割の生徒は教師を信頼して相談できない様子であり、問題の早期解決の支障となる。「心の健康手帳」等の導入に加え、更に生徒と保護者に対して相談を受ける体制をPRし、学校側に対する信頼を向上させるとともに、教員によるいじめ等の問題の早期解決を取り戻したい。 ○4/8～1/20の1日当たり学校全体の欠席者18人、遅刻者92人、早退者は1.5人となっている。一部の生徒が繰り返し遅刻・欠席をしている様子が見られる。3割の影響が休むことに抵抗を感じない生徒が多くなっていると思われる。長期にわたる遅刻・欠席を続ける生徒については、生徒・保護者に粘り強く対応し、今後も状況に応じて「カノカノ」「カノカノ」(SSW)や医療へ繋げるようしたい。 ○部活動や研究活動へ参加する生徒は約6割、しない生徒は約4割となっている。放課後や休日に「カノカノ」をする生徒が増加しており、生徒の放課後の過ごし方は多様化が進んでいる。 ○「ながらスマホ」を「カノカノ」活用していると考えているが、登下校の指導等では注意を受ける者も目立つため、引き続き注視し指導を続けたい。	○先生方が熱心に指導されている成果と思う。一方で先生により言う事が違う時があると感じている。 ○生徒自身が授業や学習に前向きに取り組んでいる。職員がいじめ対策に取組んでいる事は生徒達も理解している。いじめは学校だけでなく職場にもあり、深刻な問題で、家庭での責任が大きい。「いじめから逃げたことは悪い事ではない」とし、「逃げ場」という活動を進めている機関があると感じているが、何よりも大切な命を守るために有効な手段の一つだと思う。登下校時の「ながらスマホ」防止及び「カノカノ」活用率も昨年度より改善されている。生徒を見てのとまるべきである。 ○交通事故再現シート等の実施等交通安全指導、性に関する講演会等保護者への取組も毎年工夫を凝らしている。保護者の方から「健康も割合以上が満足しており、新入生募集の観点からも強みになる。引き続き生徒に寄り添った指導をお願いしたい。
		5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。	○いじめについて、学校は解決に向けて取り組んでくれると認識している生徒が85%以上である。 ○教育相談体制が十分であり、80%以上の生徒が職員を信頼して相談できると感じている。	○主にLHR等を通じて、生徒指導部を中心にいじめ防止についてしっかり取り組んでいることを認識させ、学校全体でいじめを許さない雰囲気をつくる。 ○職員は生徒に寄り添う指導を心がけ、「受容的な態度で生徒に接する」ようにする。教育・発達相談係を中心に組織的な対応を行い、時にはASやSSWと連携しながら実績を重ね、対応力と信頼を向上させる。	A	A	○生徒指導及び各種情報共有については優先的かつ緊張感をもって対応にあたる。 ○特にいじめについては現在10件(1,2年生各5件)を認知し、うち3件をいじめとして認定した。認定した3件について、慎重かつ丁寧に対応している。 ○職員側はいじめ対策や相談について受け止める体制を整備している。生徒からの相談に関する認識は余り向上しなかった。また、約2割の生徒は教師を信頼して相談できない様子であり、問題の早期解決の支障となる。「心の健康手帳」等の導入に加え、更に生徒と保護者に対して相談を受ける体制をPRし、学校側に対する信頼を向上させるとともに、教員によるいじめ等の問題の早期解決を取り戻したい。 ○4/8～1/20の1日当たり学校全体の欠席者18人、遅刻者92人、早退者は1.5人となっている。一部の生徒が繰り返し遅刻・欠席をしている様子が見られる。3割の影響が休むことに抵抗を感じない生徒が多くなっていると思われる。長期にわたる遅刻・欠席を続ける生徒については、生徒・保護者に粘り強く対応し、今後も状況に応じて「カノカノ」「カノカノ」(SSW)や医療へ繋げるようしたい。 ○部活動や研究活動へ参加する生徒は約6割、しない生徒は約4割となっている。放課後や休日に「カノカノ」をする生徒が増加しており、生徒の放課後の過ごし方は多様化が進んでいる。 ○「ながらスマホ」を「カノカノ」活用していると考えているが、登下校の指導等では注意を受ける者も目立つため、引き続き注視し指導を続けたい。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	○1日の遅刻者数及び欠席者数がそれぞれ平均して6人以下である。 ○部活動や農業クラブ研究部に60%以上の生徒が所属している。	○遅刻や欠席が多い生徒に対し、保護者への情報提供を行い、改善を促す。併せて「ながらスマホ」防止と「カノカノ」活用指導を徹底する。 ○面談や指導の中で遅刻や欠席の原因を探り保護者やSCと連携して指導に臨むほか、適切な専門機関等へつなげ、早期の改善を図る。	B	C	○生徒指導及び各種情報共有については優先的かつ緊張感をもって対応にあたる。 ○特にいじめについては現在10件(1,2年生各5件)を認知し、うち3件をいじめとして認定した。認定した3件について、慎重かつ丁寧に対応している。 ○職員側はいじめ対策や相談について受け止める体制を整備している。生徒からの相談に関する認識は余り向上しなかった。また、約2割の生徒は教師を信頼して相談できない様子であり、問題の早期解決の支障となる。「心の健康手帳」等の導入に加え、更に生徒と保護者に対して相談を受ける体制をPRし、学校側に対する信頼を向上させるとともに、教員によるいじめ等の問題の早期解決を取り戻したい。 ○4/8～1/20の1日当たり学校全体の欠席者18人、遅刻者92人、早退者は1.5人となっている。一部の生徒が繰り返し遅刻・欠席をしている様子が見られる。3割の影響が休むことに抵抗を感じない生徒が多くなっていると思われる。長期にわたる遅刻・欠席を続ける生徒については、生徒・保護者に粘り強く対応し、今後も状況に応じて「カノカノ」「カノカノ」(SSW)や医療へ繋げるようしたい。 ○部活動や研究活動へ参加する生徒は約6割、しない生徒は約4割となっている。放課後や休日に「カノカノ」をする生徒が増加しており、生徒の放課後の過ごし方は多様化が進んでいる。 ○「ながらスマホ」を「カノカノ」活用していると考えているが、登下校の指導等では注意を受ける者も目立つため、引き続き注視し指導を続けたい。	○先生方が熱心に指導されている成果と思う。一方で先生により言う事が違う時があると感じている。 ○生徒自身が授業や学習に前向きに取り組んでいる。職員がいじめ対策に取組んでいる事は生徒達も理解している。いじめは学校だけでなく職場にもあり、深刻な問題で、家庭での責任が大きい。「いじめから逃げたことは悪い事ではない」とし、「逃げ場」という活動を進めている機関があると感じているが、何よりも大切な命を守るために有効な手段の一つだと思う。登下校時の「ながらスマホ」防止及び「カノカノ」活用率も昨年度より改善されている。生徒を見てのとまるべきである。 ○交通事故再現シート等の実施等交通安全指導、性に関する講演会等保護者への取組も毎年工夫を凝らしている。保護者の方から「健康も割合以上が満足しており、新入生募集の観点からも強みになる。引き続き生徒に寄り添った指導をお願いしたい。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	○進路情報の提供や進路行事が役立っていると感じる生徒が75%以上である。	○学年と連携を図り3年間を見据えた計画的な指導を行う。 ○保護者に対する情報提供を積極的に行い、本校進路指導への理解について向上を図る。	B	A	○進路指導に対する評価は生徒・保護者ともに高い傾向にある。8.9割の生徒は自分の将来について真剣に考えている。約1割強の生徒については原因が多岐に渡ると考えられる。進路指導担当や担任や学年団による粘り強い指導を行っている。 ○進路指導部では3年間を通じた体系的な進路指導を行っている。今後も内容を精選し、効果的な進路指導を実施するよう取り計らってきたい。	○先生方が熱心に指導されている成果と思う。一方で先生により言う事が違う時があると感じている。 ○生徒自身が授業や学習に前向きに取り組んでいる。職員がいじめ対策に取組んでいる事は生徒達も理解している。いじめは学校だけでなく職場にもあり、深刻な問題で、家庭での責任が大きい。「いじめから逃げたことは悪い事ではない」とし、「逃げ場」という活動を進めている機関があると感じているが、何よりも大切な命を守るために有効な手段の一つだと思う。登下校時の「ながらスマホ」防止及び「カノカノ」活用率も昨年度より改善されている。生徒を見てのとまるべきである。 ○交通事故再現シート等の実施等交通安全指導、性に関する講演会等保護者への取組も毎年工夫を凝らしている。保護者の方から「健康も割合以上が満足しており、新入生募集の観点からも強みになる。引き続き生徒に寄り添った指導をお願いしたい。
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	○「自己の生き方」「将来の職業」等について70%以上の生徒が真剣に考えている。	○進路指導部だけでなく各教科や特別活動等でも自己の生き方や進路について指導する。	B	A	○進路指導に対する評価は生徒・保護者ともに高い傾向にある。8.9割の生徒は自分の将来について真剣に考えている。約1割強の生徒については原因が多岐に渡ると考えられる。進路指導担当や担任や学年団による粘り強い指導を行っている。 ○進路指導部では3年間を通じた体系的な進路指導を行っている。今後も内容を精選し、効果的な進路指導を実施するよう取り計らってきたい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	○webページを月平均5回以上更新し、本校の教育活動の周知を図る。	○広報係を中心に、各行事担当や各分掌からの記事を掲載するほか、過去の記事を見直し適時更新を行う。	B	A	○学校Webの更新は本年度2学期より若手教員によるInstagram(SNS)の開設によりほぼ毎日行っている。生徒や保護者が定期的に閲覧するほか、受験生や地域に対する広報手段として有効なものもある。今後も積極的な更新に努めることと、従来からの報道機関への連絡等も行っていった。また各科・コースに画像の提供を求め、学校全体が理解していただけの方策に努めたい。 ○SNSへの発信は適宜行っており、殆どの保護者が利用している。欠席等の連絡もSNSで行えるようになったが、約6割弱に留まる。電話連絡の手軽さや家庭のインターネット整備状況による点もあると思われるが、SNSでの伝達を波及させたい。	○先生方が熱心に指導されている成果と思う。一方で先生により言う事が違う時があると感じている。 ○生徒自身が授業や学習に前向きに取り組んでいる。職員がいじめ対策に取組んでいる事は生徒達も理解している。いじめは学校だけでなく職場にもあり、深刻な問題で、家庭での責任が大きい。「いじめから逃げたことは悪い事ではない」とし、「逃げ場」という活動を進めている機関があると感じているが、何よりも大切な命を守るために有効な手段の一つだと思う。登下校時の「ながらスマホ」防止及び「カノカノ」活用率も昨年度より改善されている。生徒を見てのとまるべきである。 ○交通事故再現シート等の実施等交通安全指導、性に関する講演会等保護者への取組も毎年工夫を凝らしている。保護者の方から「健康も割合以上が満足しており、新入生募集の観点からも強みになる。引き続き生徒に寄り添った指導をお願いしたい。
		○本校からの情報発信に保護者の80%以上が満足している。	○教務部庶務係をはじめ、各分掌が実施する学校行事に際して積極的に情報提供を行う。 ○保護者宛の通知を発送した際には、その旨を一斉メール等で知らせることをこころがける。	A	A	○学校Webの更新は本年度2学期より若手教員によるInstagram(SNS)の開設によりほぼ毎日行っている。生徒や保護者が定期的に閲覧するほか、受験生や地域に対する広報手段として有効なものもある。今後も積極的な更新に努めることと、従来からの報道機関への連絡等も行っていった。また各科・コースに画像の提供を求め、学校全体が理解していただけの方策に努めたい。 ○SNSへの発信は適宜行っており、殆どの保護者が利用している。欠席等の連絡もSNSで行えるようになったが、約6割弱に留まる。電話連絡の手軽さや家庭のインターネット整備状況による点もあると思われるが、SNSでの伝達を波及させたい。	○先生方が熱心に指導されている成果と思う。一方で先生により言う事が違う時があると感じている。 ○生徒自身が授業や学習に前向きに取り組んでいる。職員がいじめ対策に取組んでいる事は生徒達も理解している。いじめは学校だけでなく職場にもあり、深刻な問題で、家庭での責任が大きい。「いじめから逃げたことは悪い事ではない」とし、「逃げ場」という活動を進めている機関があると感じているが、何よりも大切な命を守るために有効な手段の一つだと思う。登下校時の「ながらスマホ」防止及び「カノカノ」活用率も昨年度より改善されている。生徒を見てのとまるべきである。 ○交通事故再現シート等の実施等交通安全指導、性に関する講演会等保護者への取組も毎年工夫を凝らしている。保護者の方から「健康も割合以上が満足しており、新入生募集の観点からも強みになる。引き続き生徒に寄り添った指導をお願いしたい。
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	○ICTを活用した授業や、学習支援ソフトを用いた個別最適な学びに対して満足と答える生徒が70%以上である。	○学習指導部を中心にICTの効果的な活用を促す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図る。 ○授業においてGoogle検索や「AIチャット」等を活用することを推進する。	B	A	○ICTを活用した指導はほぼすべての職員が行っている。生徒の満足度も高い。授業におけるGoogle検索の活用については職員研修(模範授業研究)を実施する等、今後もICT活用を推進していく予定である。 ○「kinako」については、業務に定着している。職員の出張・年休等も「kinako」に任じている。 ○定期休日の「百問連続」による自動採点についてもほぼ全員の教員が実施している。これらの経験を活かし、入試においても柔軟な採点につなげていきたい。	○先生方が熱心に指導されている成果と思う。一方で先生により言う事が違う時があると感じている。 ○生徒自身が授業や学習に前向きに取り組んでいる。職員がいじめ対策に取組んでいる事は生徒達も理解している。いじめは学校だけでなく職場にもあり、深刻な問題で、家庭での責任が大きい。「いじめから逃げたことは悪い事ではない」とし、「逃げ場」という活動を進めている機関があると感じているが、何よりも大切な命を守るために有効な手段の一つだと思う。登下校時の「ながらスマホ」防止及び「カノカノ」活用率も昨年度より改善されている。生徒を見てのとまるべきである。 ○交通事故再現シート等の実施等交通安全指導、性に関する講演会等保護者への取組も毎年工夫を凝らしている。保護者の方から「健康も割合以上が満足しており、新入生募集の観点からも強みになる。引き続き生徒に寄り添った指導をお願いしたい。
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	○ICTを活用した業務改善が進んでいると、職員の80%以上が感じている。	○授業や会議においてGoogleドライブを活用することを推進する。日頃の朝会や施設予約、情報伝達については「kinako」やGoogleclassroomを活用し、利便性を向上させる。	B	A	○先生方が熱心に指導されている成果と思う。一方で先生により言う事が違う時があると感じている。 ○生徒自身が授業や学習に前向きに取り組んでいる。職員がいじめ対策に取組んでいる事は生徒達も理解している。いじめは学校だけでなく職場にもあり、深刻な問題で、家庭での責任が大きい。「いじめから逃げたことは悪い事ではない」とし、「逃げ場」という活動を進めている機関があると感じているが、何よりも大切な命を守るために有効な手段の一つだと思う。登下校時の「ながらスマホ」防止及び「カノカノ」活用率も昨年度より改善されている。生徒を見てのとまるべきである。 ○交通事故再現シート等の実施等交通安全指導、性に関する講演会等保護者への取組も毎年工夫を凝らしている。保護者の方から「健康も割合以上が満足しており、新入生募集の観点からも強みになる。引き続き生徒に寄り添った指導をお願いしたい。
※各学校で必要に応じて評価対象を加える。							